

マンション特有の不安要素を、居住者様と京阪電鉄不動産との役割分担で解消 2020年1月17日(金)にマンション防災プログラム「FINE BOX」を始動。

居住者様と京阪電鉄不動産が役割を明確にし、日頃から安全安心な暮らしづくりに取り組みます。



▲ FINE BOX ロゴマーク(縦版)

京阪電鉄不動産株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役:道本 能久)は、阪神・淡路大震災から25年となる2020年1月17日(金)より、マンション防災プログラム「FINE BOX」を始動します。2020年3月に竣工する「ファインエクストラシティ」(大阪市東淀川区)をはじめ、当社マンションブランド「ファイン」シリーズ関西圏の物件より導入していきます。

当社では、地震や台風などに対するマンション特有の災害リスクを再検証し、マンションでの避難生活を想定した防災への取り組みを新たに策定しました。

居住者様・当社・管理会社・管理組合が手を取り合い「和(輪)になる」思いを「和ごころ」に込め、もしもの時の不安を解消しつつ住まいと暮らしを包み込むことをコンセプトにしています。「FINE BOX」は建物や設備、共用備蓄での災害対策や、居住者様同士のコミュニティ醸成だけでなく、もしもの時のマンション特有の不安不便を解消する防災アイテムのご提供や、マンションならではの防災組織の立ち上げまでをサポートする防災プログラムです。

本プログラムには、コミュニティづくりと防災の専門家であるHITOTOWA INC.(本社:東京都目黒区、代表取締役:荒昌史)が参加し、防災組織づくりに取り組む管理組合運営を支援します。

マンション特有の不安要素とFINE BOXでご提案する解決策

各世帯の防災意識を高めるための備蓄品を設置・提供するだけでなく、居住者様ご自身が暮らしを守るためにどんな防災グッズを用意すべきか、もしもの時の行動方法など、日頃から防災意識を高められるようなサポートを行います。

マンション特有の課題	FINE BOX での解決策
災害時、どこに避難すべきかわからない。	防災備蓄品の一部を提供することで、住み慣れた自室で被災生活を送ることができるようにサポートします。
防災設備・備蓄品の場所や機能、使い方がわからない。	マンション内の防災拠点の位置や機能、周辺情報まで載ったマンションオリジナルの防災パンフレットをご提供します。
居住者同士で助け合えるのか、誰が指揮できるのか不安。	専門家と一緒に防災組織の立ち上げ・活動をサポートします。

相互の役割を明確にしながら安全安心な暮らしをサポートします。

京阪電鉄不動産

居住者 / 管理組合 / 管理会社

ささえる



竣工写真(ファインシティ甲子園)

安全安心に配慮したマンションをご提供し、居住者様の暮らしを守ります。また被災生活も考慮し、もしもの時の行動がしやすいマンション環境を整えます。

そなえる



※掲載設備や備品の中身は変更する可能性があります

マンション内での被災生活を想定したオリジナル防災バッグや各マンションオリジナルの防災パンフレットを各世帯にご提供。共用部の備蓄品も防災イベント時に活用し、もしもの時に備えます。

はぐくむ



参考写真

居住者様同士が日頃から災害を想定し、協力し合える防災組織の立上げを専門家がサポート。居住者様が参加しやすい交流イベントや防災訓練も開催していきます。